

# シャウト！（叫べ）

---

シリーズ～詩編～

2015/1/18

# 詩編 100篇

【賛歌。感謝のために。】  
全地よ、主に向かつて喜び  
の叫びをあげよ。

喜び祝い、主に仕え

喜び歌つて御前に進み出よ。

知れ、主こそ神であると。

主はわたしたちを造られた。

わたしたちは主のもの、

その民／主に養われる羊の  
群れ。

感謝の歌をうたつて主の門  
に進み／賛美の歌をうたつ  
て主の庭に入れ。感謝をさ  
さげ、御名をたたえよ。

主は恵み深く、慈しみはと  
こしえに／主の眞実は代々  
に及ぶ。



# この詩編について

- ◆ 95編から続くシリーズの最後
  - ◆ バビロン捕囚帰還後に再建されたいわゆる「第二神殿」奉献時に歌われた
- ◆ 「賛歌」について
  - ◆ ヘブライ語では“ミズモール”。「歌う」「演奏する」
  - ◆ ギリシャ語では“プサルモス”。英語の”Psalm (詩編)”の語源
- ◆ 「感謝のために」
  - ◆ この詩編にだけ使われている表題

# 全地よ、主に向かって喜びの叫びをあげよ。

- ◆ **賛美は「全地」が行う**
  - ◆ すべての被造物は主を賛美している
- ◆ **賛美は「主に向か」う**
  - ◆ 賛美を献げる瞬間に心が「上に」向かう
- ◆ **賛美は全身で!**
  - ◆ 「喜びの叫びをあげよ」: 古い英語訳では”Make a joyful noise” (喜ばしい騒音を出せ!)
  - ◆ 時には「角笛」をならして大声を上げる



# 喜び祝い、主に仕え 喜び歌って御前に進み出よ。

## ◆ 喜びのない賛美はない

- ◆ 「喜びの叫び」「喜び祝い」「喜び歌って」
- ◆ 喜びを表すことも賛美の一部

## ◆ 喜びをもって主に仕える

- ◆ 主に仕えさせるのではなく、私たちが仕える

## ◆ 喜びつつ御前に進み出る

- ◆ 本来近づくことすら許されないのに、主の恵みと慈しみにより御前に出ることが出来る

知れ、主こそ神であると。主はわたしたちを造られた。わたしたちは主のもの、その民／主に養われる羊の群れ。

- ◆ **賛美する理由①**: 主こそ神であるから
  - ◆ 知れば知るほど賛美したくなる
- ◆ **賛美する理由②**: 私たちは主に造られたから
  - ◆ 賛美は被造物がすべき第一のこと
- ◆ **賛美する理由③**: 主に養われているから
  - ◆ 「瞳のようにわたしを守り」〈17:8〉
  - ◆ 24時間体制で守り, 導き, 養って下さっている



感謝の歌をうたって主の門に進み  
賛美の歌をうたって主の庭に入れ。  
感謝をささげ、御名をたたえよ。

- ◆ 賛美は最高の**礼拝**である
  - ◆ 楽しいから、好きだから歌うのではない。
  - ◆ 歌の上手下手は関係ない
  - ◆ 音楽のジャンルも関係ない
- ◆ 賛美は最高の**信仰表現**である
  - ◆ 主はどのような方であるか告白する
- ◆ 賛美は最高の**奉仕**である
  - ◆ 実は唯一の奉仕でもある

# 主は恵み深く、慈しみはとこしえに 主の真実は代々に及ぶ。

- ◆ **賛美する理由④**: 主は恵み深いから
  - ◆ 独り子をさえおしまわずに与えるほど
- ◆ **賛美する理由⑤**: 主の慈しみは尽きないから
  - ◆ 何度背いても見捨てない
- ◆ **賛美する理由④**: 主の真実は変わらないから
  - ◆ 約束をたがえることはない



# 賛美は主の民のあかし

全地よ 主に向かい

喜びの声をあげよ

歌いつつ主の民よ 御前に仕えよ

知れ 主こそ神

われらの造り主

われらは主のもの その牧場の羊